

トチカガミ	<i>Hydrocharis dubia</i> (Blume) Backer	絶滅危惧 I 類
(環境省:準絶滅危惧)		トチカガミ科
選定理由	生育地が極度に減少している。	写真(福岡義洋)
形態の特徴	茎は水中で横に伸びて、節から浮葉が出る。葉柄は5-20cm、葉身は円形で基部は深い心形、直径は2-6cm、裏面は普通気泡があって膨れる。雌雄異花。花柄は水面上へ伸びて先に花をつける。萼片は3枚、緑色。花弁は3枚、卵形で長さ10-15mm、白色。	
生態的特徴	湖沼、溜池、水路などに群生する多年草。花期は8-10月。	
分布状況	アジアとオーストラリアに分布し、日本では本州以南に見られる。岐阜県では県南西部の南方にある。	
減少要因	湖沼や溜池の埋め立てと水質の悪化が考えられる。	
保全対策	生育できる溜池などの確保と水質の改善。	
特記事項		
参考文献		

文責:高橋弘